

令和5年度 札幌自由が丘学園三和高等学校 学校評価結果

和寒町教育特区学校審議会条例第2条第1項第4号により、三和高等学校の令和5年度の学校運営全般の状況について、同校から提出された資料や聞き取り調査等を通して、下記のとおり評価を行いましたので、結果を町長に報告します。

評価項目	評価の視点	評価	所 見
1	学習の状況 教育課程の適切な運用と状況 教科指導の状況 進路指導の状況	良い	学習指導では、本校スクーリングを和寒町で実施することができた。宿泊学習は、生徒たちにとって貴重な体験となっていた。また、コロナ感染症の5類移行に伴い、対面授業を実施することができた。さらに、登校することが難しく学習が遅れ気味の生徒、理解するのに時間を要する生徒等に対して、習熟度別指導や個別指導などの学習支援を継続して実施した。今後も、学習指導の充実に向けて取り組んでいただきたい。 進路指導では、一定数の生徒が希望する学校や就職先に入ることができたことは成果である。社会への一歩が踏み出せていない生徒に対しては、今後も進路指導の方法を工夫していくことを期待する。
2	生徒の状況 生徒指導等の状況 生徒の人格的発達の状況 安全管理の状況 要望等の状況	優れている	本校には、何かの理由により一度は高校へ通わないことを選択した生徒が多く入学してくる。そのような生徒の「小規模・少人数の落ち着いた環境で学びたい」、「人間的な関係を持ちたい」という思いを大切にしながら、生徒一人一人の居場所づくりを重視し、生徒との信頼関係の構築や保護者との綿密な連携に力を注ぐなど、自立に向けた丁寧な生徒指導を進めていることは高く評価できる。今後も、生徒の困り感をいち早く察知し、学校内外の居場所や学びの環境づくりを進めていくことを期待する。
3	学校管理運営の状況 組織運営等の状況 教育目標と学校評価の状況 設置者と学校の取組状況	優れている	①「通信制高校の利点を生かした学習機会の確保」については、通常の授業に加え、メディアを活用した学習に取り組み、学力向上を図った点が評価できる。 ②「地方の教育資源の活用による多様な体験」については、和寒町でのスクーリングが実施できたことは本年度の成果である。次年度も、実施可能な活動を工夫していくことを期待する。 ③「入学者(生徒数)の確保」については、生徒数は増加しているが、学則の定員に近い入学者(生徒数)の確保ができていない状況である。次年度は、生徒数の増加へ向けたさらなる工夫を期待する。 和寒本校の校舎と札幌学習センターの環境整備については、様々な面で課題が多い。本校の設備補修や札幌学習センターの活用については、今後も検討を重ねていく必要がある。
4	学校・家庭・地域の連携協力の状況 学校に関する情報公開の状況 学校と保護者・地域住民等との連携協力の状況	良い	学校評価では、個別懇談と日常的な連絡により、情報共有や相談ができたことが成果とされていた。また、保護者の意見や協力を教育活動に反映させるための機会の創出が次年度の課題となっていた。 地域との連携に関しては、本年度はスクーリングが実施できたが、次年度は和寒町の社会的資源を活用した学習活動のさらなる充実を期待する。
5	学校設置による効果 学校が設置されたことによる経済効果	良い	「北海道科」、「自然体験科」の学習を基盤とした和寒町におけるスクーリングは、対話と体験を通じた実のある教育活動が期待できる。豊かな体験活動は、生徒の夢や希望の実現の糧となり、将来の支えとなっていると同時に、経済効果としてもプラスに働くことが期待できる。次年度は、スクーリングの際に、生徒や保護者の和寒町のイベントへの参加や、本校の和寒町における教育実践の積極的な発信を、保護者の理解と協力を得ながら進めていくことを期待する。
6	町との連携協力の状況 町への現状報告及びセーフティネット対策の状況	良い	学校の運営状況や教育効果は、学校評価や学校審議会等を通して共有化されてきた。次年度以降、法人化された後も、地域の活性化や地域産業を担う人材の育成など、社会的な使命を多角的に把握し、教育の質を高め、多様なニーズをもった生徒の受け入れを推進していただきたい。そのためにも、日常的な情報交換や教育活動の紹介など、学校の教育活動への理解促進に努めることは重要である。そして、さらなる教育内容の充実と、生徒の安全安心と学習機会を担保する教育環境の整備に、継続して取り組んでいくことを期待する。

総合評価	良い	*評価は、「模範的」、「優れている」、「良い」、「おおむね満足」、「要改善」の5段階。
------	----	---

総合所見	三和高等学校評価基準に基づき総合的に評価を行った結果、不登校や高校中退など様々な事情で、必要な学力、人間関係能力、自尊感情等を十分身につけることができずに入学してきた生徒に対し、教師が一人となつて心理面や生活リズムの安定を図る指導を行っている。さらに、ICTを活用した教科指導やきめ細かな進路指導を通して、基礎的・基本的な学習内容を定着させたり、個々の希望に応じた進路実現につなげたりしている点は高く評価できる。また、和寒町のフィールドや人材を活用した「北海道科」や「自然体験科」の学習は、和寒町民との交流を活性化させ、経済的効果も期待できる。今後も、多様性のある生徒のニーズに適切に対応できるよう様々な場を通して教職員の指導力のさらなる向上を図っていくことが大切であると考えます。 学校法人化される次年度以降も、本校のよさを積極的にアピールする情報公開の工夫と、保護者・住民の思いや願いを的確にとらえ実現させていく学校運営に努め、高等学校としての使命を果たしていくことを期待する。
------	---